

その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.086

田中 康夫



「問題先送り」では、日本の再興へと繋がりません。実体を伴わぬ表層的な言葉が踊る「ブランドデザイン」や「グレートリセット」も、所詮は同じ穴の貉。橋爪功氏の演ずる周吉が映画「東京家族」で呟く「ここで間違えてしまったんだ、この国は」の再来を齎すだけです。

厚生労働省の発表で、生活保護受給者は昨年9月時点で213万人を突破。生活保護世帯数は155万世帯を超えています。平成元年には65万世帯でした。四半世紀も経たぬ内に2・4倍も増加。年間総額3兆7千億円。最低賃金よりも受給額が上回る都道府県が全体の25%。大阪市では20人に1人が生活保護受給者。「矛盾」を超えて「破綻」しています。

親子3人の月間扶助基準額24万円強。20〜30代単身者14万円弱。医療費全額無料、住民税等全て無料。富すれば鈍する。その厚遇が怠情を招き、翌年度に収入を得て「生保」から脱却する比率は全体の僅か3%に留まります。

他方で、健常者と同じスタートラインに立つのが極めて困難な障害者への支援は未だに不十分。生活習慣病ならぬ先天性の難病である小児糖尿病患者は20歳を過ぎると医療費全額自己負担の矛盾。自分達の世代が貰える筈もない

究極の脱・裁量行政である BIとBWを全面導入せよ

今週の逸品



鴨なん 1600円

東京五輪前年の1963年(昭和38年)に力道山が手掛けた赤坂リキマンションに程近い。「そば屋」営業の屋も摘まみとしての料理が振れる。お返し3品・徳利酒・ざる又は掛け蕎麦で1800円の晩酌セットを夜には供す

。日替わり4品で1000円のお返しセットに加えて、クレンソウと砂肝の温サラダ、茄子の肉味噌詰めといった600円の料理。梅ざる、辛味大根蕎麦等の蕎麦は800円〜。日本酒、焼酎、ワインも過不足無き品揃え。

【ながら】東京都港区赤坂7-6-50 ☎03-3583-7500 営11:30~14:30(LO14:00)、18:30~23:00(LO21:30) 不定休(HPで確認) 要予約 禁煙 <http://www.akasaka-nagara.com/>

Illustration by Hajime Anzai



と若年層が看破すればこそ納付率が6割を切った国民年金も、増長し続ける生活保護も最早、制度として存続不可能と政府は宣言すべき。その上で、甘い汁に巣くう族議員・族団体を排除する究極の脱・裁量行政たるBI(基本所得保障)とBW(基本労働保証)を全面導入すべき。それこそは真の「グランドデザイン」「グレートリセット」ではありませぬか。

が、大阪に留まらず政府も、生活保護受給の「口利き」こそ「福祉と平和を掲げる政事」と信じて疑わぬ「獅子身中の虫」と同義する宿痾から逃れられず、支給額20%削減と総選挙前に大言壮語したのも虚しく、1月18日に政府が発表した見直し方針は「減額幅は10%が限度」3年間掛けて段階的に引き下げ」と腰砕け。

民主党の御家芸だった労使ベア交渉的摺り合わせと同じ穴の貉な「問題先送り」なボス交渉の産物です。生保という枠組み自体を取っ払い、デザインを一新すべき千載一遇の好機を逸しました。

赤坂の外れに位置する「ながら」の主はインダストリアル・デザイナーが前職。昼は旨い酒の飲めるそば屋、夜はPのお蕎麦がある居酒屋」と控え目な口上を掲げるも粗挽きの具合は芸術の域に達しています。その内装、その料理、その接客、その空気、何れも新しいデザインの矜持を感じます。